

歴史的風致維持向上 計画認定記念 第4回国見町 歴史まちづくり シンポジウム 『国見町の歴史まちづくり』

- 日時 3月21日(土)
午後1時30分から午後4時30分
(開場：午後1時)
- 会場 観月台文化センター
大研修室
- 内容
【講演】
「全国の歴史まちづくりの動き」
国土交通省
景観・歴史文化環境整備室
課長補佐 森口俊宏氏
【報告】
「国見町歴史まちづくり計画に
ついて」
国見町歴史まちづくり推進室職員
【意見交換・総括】
東北大学名誉教授 入間田宣夫氏
※国見町歴史まちづくり計画策定
委員会委員長
- 申込・参加料 不要
- 定員 100名(先着順)
- 問い合わせ先
歴史まちづくり推進室
☎：585-2676(直通)
FAX：585-2181(代表)



学生の視点で考える国見町のまちづくり 平成26年度域学連携成果報告会

今年度連携協定を締結した、桜の聖母短期大学・福島大学(詳細は昨年の5・10月広報)の学生が町をフィールドとした調査・研究を1年間続けてきました。今回、その成果報告会を2月11日、14日に開催し、発表と学生を交えたグループワークによる意見交換が行われました。

国見まちづくりカフェ



2/11

福島大学大学院生(主任指導教員：菊地芳朗教授)と桜の聖母短期大学生(主任指導教員：池田洋子教授)による発表が観月台文化センターで行われ、約100人が参加しました。福島大学生は、「国見町の歴史まちづくり」をテーマに発表を行い、住民自らの語りが資源となる視点、地域の祭りが復興につながるなどの主張など5つの提言がなされました。桜の聖母短期大学生は、「食育推進～地域の食材を使った子どものおやつ～」をテーマに、桃を使ったレシピを、果樹農家の思いを学び開発した経過が発表されました。

内谷地区地域づくりカフェ



2/14

福島大学岩崎ゼミナール(指導教官：岩崎由美子教授)による「内谷集落活性化フィールドワーク」が鳥取・内谷防災センターで行われ、約40人が参加しました。聞き取り調査などから、地域の資源や課題を明らかにし、集落の弱みを強みに、好機によって課題を克服する活性化策について発表があり、住民からも多くのコメントがありました。

本計画は、当町の多様な文化や風習・自然・人々の思いなどに光をあて、時に見過ごされることもあった「たからもの」を再発見することから始まりました。昨年4月から策定にむけた作業が始まり、町内各地の、祭りや生活文化など様々な伝統行事を調査しました。現地では、多くの方に協力いただき、これまでの歴史や継承してきた人々の思いを伺いました。国見を形づくる各地の魅力が、計画の柱となっています。

現地調査と平行して「国見町歴史まちづくり計画策定委員会」(委員長：入間田宣夫東北大学名誉教授)を発足。委員会は、文化財や都市計画(まちづくり)・景観などの専門家・関係行政機関に加え、これまで地域のたからを守り伝えてきた町内団体・所有者等により構成されました。会議では、雄大な景観や自然に育まれた「国見らしさ」とは何かを探求すべく議論が重ねられ、パブリックコメントを経て12月に太田久雄町長に建議されました。

計画では7つの歴史的風致を取り上げ(詳細6・7P)、各風致の課題・方針から15の事業を今後10年間で実施することを定めました(詳細8・9P)。特に、町の歴史性の根源として800年の間守られてきた国史跡「阿津賀志山防塁」を中核とする重点地区には、勇壮な「鹿島神社例大祭」や「農業市・だるま市」「水利用」などの伝統的な祭礼や生活文化が継承され、地域固有の石材資源を用いた建築・加工技術を元とする産業が受け継がれています。

また、周囲にも神楽や「講」のコミュニティを残す集落の活動が存在します。無形民俗文化財活動支援事業や文化遺産の総合的把握に向けた調査事業などを行い、保護・継承につなげていきます。様々な課題とともに、東日本大震災からの復旧・復興に取り組み国見町にとって、本計画は町の再生に向けたまちづくりの軸となるものと考えます。1000年培われてきた知恵・文化・歴史を受け継ぎ、未来へ伝えるため計画を推進します。

interview



歴まち計画策定委員会
委員長 入間田宣夫氏

これまで阿津賀志山防塁を中心とする「史跡のまち 国見」に約30年間関わらせていただきましたが、石のまち、水の利用、伝統的なお祭などの新たな魅力を知ることができました。これらの魅力が震災を乗り越え、愛着をもって継承されている様子は、「町の誇り」であると感じます。今後も、思いを共有する町民の皆さんが主体となって携わり、歴史を活かしたまちづくりを進めることが、未来の子ども達が頑張れる糧になるのではないのでしょうか。



- 1 どの本にも残されていない、貴重な大正・昭和の国見について伺う。
- 2 現在も受け継がれる光明寺の水利用。
- 3 鹿島神社若連事務所を視察する国(国交省・文化庁・農水省)の担当者。
- 4 歴まち計画策定委員会から太田久雄町長へ計画(案)を建議

計画の策定は
国見を知ることでした

もっと国見らしさを
もっと地域に根差して

計画で終わらせない
かがやく国見へ